

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	有限会社 都紀		
事業所名	本庄紀水苑		
所在地	佐賀県佐賀市本庄町袋229-8		
自己評価作成日	平成25年1月31日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html">http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体で3つの委員会を組織しており、業務手順委員会では新人職員の育成に努め、レクリエーション委員会による3事業所合同での苑外活動を年4回、ワンシーズンに一回行い、入居者の方々に季節を感じて頂けるよう、活動している。環境整備委員会では各施設の美化や清掃について話し合い、入居者様によりよい生活環境の中で生活して頂けるよう取り組んでいる。母体本体や法人、自施設、苑外とそれぞれの機会で開催や研修に励み、知識・技術を向上しチームケア力を高め、理念に沿ったケアが提供できるよう努めている、民家改修型の施設である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、古民家を活かした建物で、家庭的な雰囲気があり、住み慣れた我が家のような安心感がある。管理者、職員は「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念の下、心一つにすると共に、入居者が地域の中で、その人らしく暮らせるように日々の支援に取り組んでいる。入居者と一緒に日々の食材の買い物や回覧版の受け渡しを行ったり、お彼岸には、入居者と一緒におはぎを作り近隣住民へ配ったり、地域の夏祭りに参加する等入居者、地域との交流がなされている。また、系列事業所と複数の委員会を設置し、研修や検討を行い、日々サービスの質の向上に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全てのスタッフに関して、理念を確認、共有できる機会を設け、実践、振り返りを行っている。新人スタッフにはオリエンテーションで理念の説明を行っている。	理念を事務所に掲示し、申し送り時等、日常的に理念の確認を行っている。また、入居者の支援で迷った時には理念に振り返ったり、理念の実践を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の文化祭や、体育祭、おくんちなど催し物へ参加。近隣への買い物、散歩、回覧板の受け渡し、おはぎの配布など利用者と共にいっしょに交流している。地域とつながりを持ちつづけるよう努めている。	近隣への買い物や散歩、回覧板の受け渡し、手作りのおはぎを入居者と一緒に近隣へ配ったり、地域の文化祭等のイベントへも積極的に参加を行っている。また、近所からの訪問もあり、地域住民との日常的な交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にも案内し救命救急講習を一緒に受けたり、家族会で『認知症について』をテーマを取り上げ講演してもらったり(包括)、問い合わせや相談の電話を受けた際には相談に乗っている。特に、近隣の独居老人の方には気配りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑の行事に誘いかけ、利用者の表情やサービスの実際を見て頂いたり、ビデオ鑑賞会や写真でも暮らしぶりを紹介している。年度末には、1年間の取り組みの報告と次年度の運営計画など報告を行い、意見、感想を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月に1度、入居者の家族や民生委員、地域包括支援センターの職員等の参加を得て開催されている。写真やビデオを利用し入居者の暮らしぶりを紹介したり、意見や情報交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月のお便りを送付、包括主催のネットワーク会議に積極的に参加し運営推進会議にも参加してもらい行き来がある。空床の問い合わせや困難事例の相談を行い協力関係にある。また、生保の方がおられるため、市役所保護課とも密に連絡を取り合っている。	地域包括支援センターとの連携を密にし、気軽に相談できる体制が築かれている。また、入居者のより良い支援へ向け、行政を始め関係機関への相談が密に行われ関係の構築が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯の為玄関施錠を行っているが、勉強会などで身体拘束について学び、意識してケアに取り組んでいる。	法人全体で研修会や、日頃から身体拘束をしないケアを話し合ったりと職員全体の意識付けがなされている。日中は鍵の施錠などもなく、身体拘束をしないよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフの経験年数に応じ、新任、中堅者、管理者とレベルに応じた、勉強会に参加した。お互い注意しあい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を活用されている方がおり、スタッフはそれらについて勉強会で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な時間をとり、説明を行い、利用者・家族の不安・要望を伺いながら理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会(年2回)、運営推進会議、面会、アンケートなどで意見・要望を積極的に聞くように心がけている。福祉サービス運営適正化委員会のポスターを掲示したり、苦情・意見箱の設置をし表出しやすい環境にしている。	面会時や運営推進会議、家族会等、機会あるごとに繰り返し声をかけて、意見や要望等を聴くように努めている。また、アンケート調査を実施し、要望等には速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を出しやすい雰囲気作りに努め、委員会、食事会、会議を通じて意見交換している。	委員会、申し送り、食事会などを定期的に行い、意見交換できる機会作りに努め、意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。職員も、気軽に代表者や管理者へ意見や提案が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の勤務状況、努力の把握に努め、面接を行ったり、給与水準の見直しや向上心を持って働けるような環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	FC勉強会や自施設勉強会を計画し、経験に応じた研修を行い参加している。また、苑外研修については情報提供や勤務体制の調整を行っており、働きながら資格を取得したり、現在取得を目指しているものもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC間の交流研修やFC先で一緒に勉強することで自然にネットワークが出来ている。また、苑外研修でも個人間でネットワークが広がっている。法人内でも、新人研修を行い、新人同士交流できる場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接や訪問し、ご本人が安心して利用して頂けるよう、生活歴など頭に置き言葉かけを行い、不安や要望に耳を傾けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	苑で出来るサービスを説明し、ご家族様の要望や不安をお聞きし、お互いの信頼関係を構築できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の相談を受けた段階で利用者の状態や生活環境を考慮し、何が必要なのか見極め説明や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い学び支え、助け合う関係で、共に喜怒哀楽を分かち合う中で、利用者の残存機能を最大限に生かせるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には苑行事、家族会に参加して頂き情報交換をし、共に喜び不安など分かち合い、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの本や道具に囲まれ、面会時には写真を撮り、自室に貼りだし顔を忘れてしまわれぬようにしている。買い物や自宅までドライブに出掛け、知人との触れ合いもある。また積極的に写真入りのハガキや年賀状をだし交流を図っている。	入居者の馴染みの人や場所等を把握し、友人に面会を依頼したり、自宅や家族の営まれる店に出かける等、馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事など共同作業の場を設け、気の合う利用者同士の会話に他利用者を誘い入れ、話の輪を広げたり、孤立しやすすい方でも距離感を持って他利用者とは触れあえるよう仲介し、関わりを持ちやすい雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された施設に面会に行ったり、電話やはがき、メールにて近況報告をし合い交流を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活、会話から利用者の趣味や興味あることを引き出し、家族から聞き出し、表情や言動から思いを汲み取るようにしている。希望、意向を把握しケアプランに反映できるように努めている。	日頃の会話や表情やしぐさ、家族からの聞き取りなどから、思いや意向を把握している。出された思いや意向は、職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面会に行き、生活場所や馴染みの環境を把握したり、サービス利用の事業所より情報提供書をいただくなどしている。また、生活履歴シートを活用し、情報を集めることに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアカンファレンスを毎月行い、一人ひとりの日常生活の流れを検討し、心身状態の把握、残存能力の活用または維持できる環境を工夫しケアの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランはスタッフ間で情報収集し、本人家族の意向に沿い、担当者でケアマネで作成している。本人家族にプランの説明をし承認を得ている。毎月モニタリングを行い定期的に評価し、状態変化に応じて見直ししている。	介護計画は職員間での話し合いを重ね、本人や家族の希望を中心に、作成されている。また、現状に即した支援が行えるように、モニタリング、評価、定期及び随時の計画見直しで作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化・特変時の様子・対応を詳しく記録し、申し送りや連絡ノートを使いスタッフ全員が共通理解・把握できるようにしている。また、そのことをケア会議で話し合い、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の会話、アンケート、家族会などによりその時々家族の状況・ニーズに対応し柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアを始め、要望に応じて、ボランティアの受け入れを行っている。消防・警察・自治会との連携、近隣の商業施設や近所の方々と交流の機会を増やし、豊かな生活が送れるよう支援している。また、近所の一人暮らしの方を訪問したり、行事に誘いかけ、交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望されたかかりつけ医があり、病状や要望に応じて、受診されている。協力歯科医は週1回、協力医療機関は月1回の訪問診療も実施され、病状の相談や助言がもらえたり、緊急時にも対応可能な連携がとれている。	希望に応じて、かかりつけ医への受診が行われており、協力医による往診も月1回実施されている。必要時には職員の同行され、入居者各々の望む診療が行われるよう支援されている。緊急時は、医療機関との24時間の連携が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化や気づきなど、いつでも看護師に報告・相談できており、適切な健康管理や医療活用が来ている。また、協力医療機関の看護師にも状態変化等をその都度報告し指導を受け、適切な受診や処置が行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院側と情報交換し、早期退院できるよう、医師・看護師・家族との連携に努めている。また、普段から状態変化をその都度病院に報告し、把握してもらうことで、すぐに対応してもらえ、利用者・家族にも安心して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今回初めて終末期を迎えられた利用者の家族の要望で、看取りを行った。介護スタッフ・協力医・訪問看護とで共通理解・連携を図り、他の利用者にも協力いただき支援することが出来た。改めて重度化・終末期に向けた意向の確認も本人家族に行い、スタッフ間で方針を共有できている。	入居者本人や家族へ終末期をどのように迎えるか事前に確認を行い、その人らしい終末期を迎えられるよう心掛けられている。また、医療との連携の大切さを職員間で周知しており、勉強会や話し合いが日頃より行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急法の講習を定期的に行い、勉強会で知識・対応を学び、適切な対応が出来るよう訓練している。また、緊急体制マニュアルをすぐ見える場所に設置し、迅速に対応できるよう心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間と設定し、年2回避難訓練を行っている。火災通報装置や自動火災報知設備を設置し、消防署立会いの下、実際の通報も含め訓練を行った。自治会長や民生委員、消防団等の協力も得ている。避難経路の地図や洪水のハザードマップを掲示し、全職員が把握できるようにしている。	火災を想定し、年2回避難訓練を実施している。訓練の際は、地域の方々も参加し協力体制ができている。また、消防団よりアドバイスを受けている。洪水マップを事務所内に掲示し洪水の際の避難方法なども検討している。	火災における災害対策は行われているが、火災以外の防災対策について具体的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格や気持ちを出来るだけ尊重し、各場面でその人にあった言葉掛けや接し方を工夫している。特に排泄面や混乱された場面では、誇りを傷つけず、プライバシーに配慮するような対応を心掛けている。	一人ひとりの個性に合わせた配慮が行われている。排泄時などプライバシーに留意し誘導するなどの配慮が行われ、職員間でも互いに注意しあえるような環境が整われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とスキンシップやコミュニケーションをとることを心掛け、本人が自然に思いや希望を表現できる環境を構築し、スタッフもその思いに気づき、汲み取る努力をしている。また一方的な言葉かけを避け、本人の意向を尋ねたり、選択肢を増やすことで自己表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の意向や生活リズムを尊重し、一日を過ごして頂いている。また趣味や何かしたいことなどを問いかけ、その人らしい時間が持てるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みの服装やおしゃれなどを把握し、日々取り入れ、身だしなみを整えて頂いている。特に外出時や行事の時など、外出着に着替え、お化粧をされたり、浴衣・甚平等を着られたり、おしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと食材の買い物に出掛けたり、メニュー・材料を考えながら食事の下ごしらえや調理・後片付けなど、一人一人の能力に応じて、役割分担して行っている。また苑の菜園で野菜を育て収穫し、調理することも楽しみの一つとなっている。	メニューを入居者と一緒に考えたり、菜園にて野菜を育て調理をしたりなど調理の楽しめるよう配慮されている。また、食事の際はテーブルを囲み、職員も一緒に食事を取り、家庭的で楽しい食事が行われるよう心掛けられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の健康状態や、力を把握し、好みや習慣などを考慮しながら、食材品目の数・栄養バランスを考えて食事・嗜好品を準備し、摂取量・水分量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の力に応じてケアを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、週1回歯科の訪問診療や義歯の除菌を行い、常に美味しく食事が出来、病気の発生を未然に防げるようケアしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し残存能力を活かした排泄介助を行っている。車椅子、オムツ使用で退院してこられた入居者も、座位保持安定を確認したうえで、リハビリパンツへ取組、変更し対応している。また、新規入居者でオムツ利用者だった方もリハビリパンツに変更することができた。	排泄チェック表を利用し、入居者各々の排泄パターンの把握を行っている。オムツを利用されていた入居者も排泄パターンを把握し支援することで、リハビリパンツになるなど、排泄の自立支援がおこなわれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、乳製品や繊維質を多く含む食材を取り入れ、水分補給をこまめに勧め、運動、腹部マッサージ、下剤をうまく活用し自然な排便へとつなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度、午後からの入浴となっているが、希望や状況に応じて、毎日入浴も可能であり、入浴剤としてお茶の葉を入れ、楽しみゆつくりとした時間になるよう取り組んでいる。また、入浴ができない状況にあられるときは、清拭・更衣し清潔保持に努めている。	入居者一人ひとりの希望やペースで入浴が出来る支援が行われている。また、入浴を楽しむことができるよう、入浴剤(お茶の葉など)を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の身体状況や日中の活動量を見て、休息や早めに夜間臥床して頂くなど配慮している。不眠の方には、眠薬や漢方の服用、ホットミルクなどを提供に安眠に繋がるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員で、個人の内服薬の把握・理解に努め、誤薬を招かぬよう細心の注意を払い服薬支援を行っている。また、意識して、状態変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職歴、生活歴を考慮し、その方に合った日常作業、レクリエーションを行い、能力を發揮できる場を提供し、張りがある日々を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度バスハイクや買い物に出掛けたり、短時間でもドライブや散歩など外出し地域とつながりを保てるようにしている。また、帰宅願望がある方で、近所に家族の勤務先がある方は、状況に応じて、外出支援し、また別の方は家族協力の元、こまめに外出支援して下さっている。	入居者一人ひとりに合わせ、ドライブや散歩などの外出支援が行われている。マンツーマンで外出を行い、個々のペースに合わせて行われている。家族の協力を得て、家族と頻りに外出される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人、常にお金を所持されている方がおられ、買い物を依頼されたり、外出時などはご自分で買い物され楽しんでおられる。また、お金の理解がえられる方には、手渡して買い物して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をされる方はおられないが、電話を掛けたり受けたりした場合は、利用者本人と電話を替わり、お話できるよう配慮している。また、手紙に関しては、行事の写真はがきに一言添え書き込んでもらい、様子がわかりやすいよう工夫し、年2、3回やりとり支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに貼り絵をしてもらったり、行事の写真を貼りだし、利用者の方々に季節を感じてもらえるよう工夫している。また、リビングダイニングであるため、食事作りの音や香りが届きやすく、様子を伺えるために五感を刺激し食欲を誘う空間となっている。	共用空間には、季節感のある置物や飾り付け、花など、多く飾られている。民家改修の特徴を生かし、リビングダイニングも家庭の居間や台所のような雰囲気がある。食事の香りがすると、入居者が集まってくる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になる空間作り難しいが、気のあう利用者同士がコミュニケーションをとりやすいよう場所作りなどを配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、馴染みのものをより多く持ってきて来てほしいと依頼している。書物の持参やベット周辺に自分が安心できるものを使い慣れたものを置き、自分なりに過ごしやすい空間を作っておられる方もいらっしゃる。また、家族写真を掲示し安心して過ごして頂けるよう取り組んでいる。	馴染みのテーブルや賞状など、入居者がこれまで使い慣れた物が多く置かれ、家族や友人との写真を掲示するなど、住み慣れた部屋のような、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造2階建てで階段があり、玄関にも段差がある。居室が2階にある方は日々昇降されている。日常生活の中でその方の有する能力を發揮できるような場面づくりに取り組んでいる。		